

平成29年度

学校評価報告書

学校名	文京区立 本郷小学校
校長氏名	細田 真司

学校評価報告書(文京区立本郷小学校)

NO. 1

＜自己評価及び学校関係者評価を踏まえた全体考察＞

- 1 保護者の評価において、今年度は昨年度を上回り、すべての評価項目で「A」または「B」と回答した保護者の肯定的な評価が9割を超えた。学校の取組及び改善の状況について理解が得られたと考える。区共通項目においては、すべての項目において「よくあてはまる」が昨年比で上回っている。しかし、「わからない」の項目も含めると、「学校は、学校で起きた問題(いじめ等)に対して、素早く適切に対応している。」(72%)という結果の項目があった。学校評価の回収率は昨年度比13.4%増の80.3%となっており、保護者の学校教育に対する関心や思いは確実に高まっている。評価項目に関連する学校の取組を「わからない」とならないよう、情報発信する工夫を一層の図っていきたい。
- 2 児童による学校評価は、教員の評価ではなく児童が自己を振り返る評価項目に変更するとともに、項目内用を精選して数を絞り減らしたことで、より児童の実態を把握することができた。「朝着いた時に校門で立ち止まり、先生や当番の人、主事さんに挨拶できている。」は72%が「そう思う」と回答しているのに対して、「校内ですれ違う人と、挨拶やおじぎをしている」は「そう思う」が46%であった。次年度は「挨拶」を課題としてとらえ、具体的な行動の取組が必要である。

自己評価を基に、学校関係者評価委員会において、関係者評価を実施していただいた結果、「特別な支援を要する子どもへのきめ細やかな配慮も含め、全児童の学習状況や生活状況の詳細な把握に基づく教育の内的事項に関する指導が的確になされている」「教職員の勤務時間の改善(ノ一残業デーを設定する等)、個人情報の保護、学校内・外の教育環境整備といった学校運営の外的事項も確実に遂行されている」「学校内外への情報発信機能強化に重点を置き、学校運営に関する情報発信を学校運営協議会の情報も含めて保護者や地域に積極的に進める」等、開かれた学校づくりに向け昨年度以上に成果を挙げている」との評価をいただいた。次年度に向けた課題として指摘を受けた点は下記の通りである。さらなる改善を図っていききたい。

- 「本郷学習スタンダード」について、中学校や幼稚園との共有の必要性についての意見が昨年度も今年度も出ている。幼保小中を通じた安定した学習環境の創出のためにも、スタンダードの共有の実現化を図ってほしい。スタンダードの見直しというプロセスが必要になることもあるだろうが、その際に意見を聞くことも考えられる。本郷小が核となり積極的に進めて欲しい。
- オリンピック・パラリンピック教育のあり方について、教員からも保護者からも、迎えることの意義の指導や関わった後の意味づけが必ずしも十分ではないという意見がでている。オリ・パラ教育推進の中で、一過性のイベントに終わらせず、例えば德育を意識して、人権教育や生命尊重に関わる教育の具体的な手立ての工夫がなされることを期待している。
- 学校運営協議会は本郷小の学校を支える体制基盤である。今年度の運営協議会の自己評価をみると、今年度は昨年度の課題を踏まえ、委員の参加体制に関して改善が図られたとみられ、運営委員の地域や学校への「理解」が深まっていることは好ましい状況として評価できるが、委員が全体として「建設的な提案ができる」十分なレベルにはまだ達していない。各委員は一定程度「個人的に学校運営に関する知識の習得に努める」といった努力をしているため、今後さらに学校、保護者、地域との連携が今日異なることが期待できる。

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
学力向上	主体的対話的な深い学びをと おして、学力の向上を図る。	① 学習スタンダードや授業時刻の遵守	「本郷学習スタンダード」を踏まえて、毎時間の学習指導を実施する。 開始時刻・終了時刻を守って毎時間の授業を行う。	全校朝会や学級指導などで児童に周知するとともに、保護者会やPTA運営委員会などにおいて保護者への周知を行った。実施初年度のため、徹底は図れていないところがあるが概ねできている。開始時刻・終了時刻は、守られていないことが多い。終了時刻が遅延する場合には、教員の授業によるものが多かった。	B	・全教員が共通理解のもとで授業展開が行えるよう、共通の指導内容の見直しと充実を図るとともに、本郷小の学習規律「本郷学習スタンダード」のさらなる徹底を図っていくとともに、児童の実態や状況の必要に応じて見直しを図る。
		② 深い学びを実現する授業研究と学び合いを重視した授業の実施	深い学びを実現する授業研究に計画的に取り組み、積極的に協議会に参加したり指導案検討をしたりする。 各教科等の特性を踏まえた学び合いを重視した授業を毎月1回は行う。	研究主任を中心に、計画的に研究授業を計画・実施できた。著名な講師陣による指導・講評により、「深い学び」についての理解を深めることができた。協議会においても視点を明確にしたことで、積極的な協議をすることができた。 教員一人一人が、授業の中で、ペアやグループによる対話など、学び合いを重視した授業の組み立てを意識して授業実践に取り組むことができた。	A	・次年度も、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「深い学びを実現する授業」の視点で、各教科等の特性を明確に理解してカリキュラムマネジメントを進め、教科等横断的に研究を深めていく。 ・研究授業以外の日々の授業において「深い学び」を記録し、研究に生かしていく。
		③ ICT機器を活用した授業の実践	電子黒板や実物投影機など毎日1回は効果的に活用し、計画的・継続的な指導を行う。 PC室や図書室を毎月1回は活用し、児童が主体的に学ぶ姿勢の向上に努める。	毎日継続的に電子黒板や実物投影機を活用した授業ができた。ICT機器だけでなく、図書室を活用した「調べる学習」にも取り組んでいた。	A	ICT機器だけに頼る授業ではなく、より効果的な活用をした授業実践を毎日していく。機器の不具合時の対応について、情報教育主任を中心に環境や対応方法を整備していく。

(評価基準 A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 (D:50%未満))

重点目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的取組	自己評価		次年度に向けての改善策
				達成状況	評価	
心身の健康	発達段階を踏まえ、体力の向上などの心身の健康の保持増進を図る。	① 遊ぶ時間と場の確保	毎休み時間に、遊ぶ場の見守りを学年間で連携して行い、児童の安全確保をする。休み時間には外に出て児童と一緒に遊ぶなど、児童の外遊びをあめのひがいは毎日積極的に促す。	毎週2回、学校支援地域本部の協力のもと、朝遊びを実施することができた。休み時間の設定改善により、遊ぶ時間の確保が図ることができ、休み時間には多くの児童がすすんで長なわなどで遊ぶ姿も多く見られた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から実施した朝遊びは、次年度も継続していく。学校支援地域本部と密に連携を図り、児童の安全に十分留意していく。 休み時間については、外遊びへの意欲向上に努めていく。 全児童向け放課後事業を2学期以降に実施していく。
		② 体育授業の工夫 食育の推進	児童の実態を踏まえ、「一校一取組」である授業開始の5分運動や学年遊びに毎回取り組む。食育を意識して、給食時の挨拶や献立の解説文を配布時に毎回児童に説明する。	「一校一取組」を年間を通して各学年が継続して取り組めるように場所や時間を設定したことで、一定の児童の運動の日常化が図れた。保護者向けの啓発資料の作成については、運動便り「ぐんぐん」を定期的に発行し運動事例の紹介をするなど、家庭への情報発信をすることができた。栄養教諭による系統的な指導や和食の日給食、オリンピック給食、模擬選挙給食等、計画的に資料を基に学級指導ができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 体育科授業の5分間を利用した運動は、体力向上推進プランを基に、課題に応じた運動に取り組み、一層の充実を図る。 今年度の取組を継続していくことで、運動の日常化の一層の充実を図る。 バランスの良い食生活やマナー、食材や調理者への感謝なども含め、今後も食育の充実を図る。次年度は、江戸東京野菜は生活科から総合的な学習の時間として取り組み、一層の食育の推進を図る。
		③ 基本的な生活習慣の確立	毎朝、教室や校門等で児童を迎え、教師自らが挨拶の手本を見せながら、挨拶を交わす。時と場に応じた挨拶ができるように、継続した指導を徹底する。毎日の児童の欠席状況を把握し、9時までに理由を確認する。	毎朝の校門での挨拶は、大変よくできたが、校舎内外での挨拶ができていないことがあった。全学級において、連絡のない欠席家庭には、確実に電話等により連絡を取り、的確な把握とすみやかな初期対応を行うことができた。出席停止の疾病の情報について、ツイッターにより保護者への情報共有を図ることができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶指導については、新たな取組を検討・実施する。 児童の健康状態、欠席状況については、今年度の取組を継続していく。
豊かな心	道徳教育や体験活動等とおして、自他の生命や人権を尊重する心情を育むとともに、自然愛護や公共の精神を養い、豊かな心の育成を図る。	① 適切ないじめ対応	子供たちの人権を配慮した指導を毎日行う。学校いじめ防止対策基本方針に従い、「防ぐ」「気付く」「守る」「伝える」「寄り添う」を毎日徹底する。いじめの早期発見・初期対応に向けて、管理職に報告・相談したり、学年間で状況を共有するなど、毎回組織的対応をする。	「防ぐ」「気付く」「守る」「伝える」「寄り添う」をキーワードに、いじめに関するアンテナを高くして取り組んだ。認知したいじめは、年度末までに解消できた。いじめ状況確認表を作成と校内委員会や夕会での報告により児童の状況を共通理解できた。	B	<ul style="list-style-type: none"> 組織的に取り組み、全児童がいじめについて考える「いじめ行動宣言」「いじめ防止標語」を継続して実施する。 児童と学級の客観的な実態把握のために、心理検査Q-Uを実施する。 4～6年対象のSCによる全員面接を実施する。 毎月の校内いじめ委員会における情報共有
		② 支援教育の充実	個別指導・支援を必要とする児童に対し、特別支援教育担当指導員、特別支援教育コーディネーターと連携を図り、計画的・継続的な指導を行う。教室前方の掲示は最小限にとどめたり、黒板をきれいにしたりするなど、学習への集中力が高まる環境づくりに毎週努める。	年度初めと終わりの年2回、個別指導・支援を要する児童の情報共有をすとも、毎週末の夕会においても時間を設定できた。講師を招聘し、年2回インクルージョン教育に関する研修会を実施し、教員の理解を深めることができた。ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境に努め、全学級で教室前方の掲示物など、共通理解のもと、環境を整えてきた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学びの教室の円滑な実施と、支援が必要な児童に対して個に応じた指導を徹底していく。 保護者と合意形成を図りながら指導、支援をしていく。 毎月の校内委員会における情報共有を継続する。
		③ 体験活動や縦割り班活動の充実	学級活動を通して行事や係活動・当番活動に主体的に取り組めるような指導を、月に一度は工夫して行う。縦割り班活動の計画に基づき、月に1度は児童が積極的に取り組めるような指導を工夫して行う。委員会活動やクラブ活動に児童が積極的に取り組めるように毎回計画・立案し、実施する。	各学級において、係活動や当番活動に主体的に取り組めるよう工夫できた。縦割り班清掃をなくして、毎月の縦割り班活動(朝)を計画的に実施した。クラブ活動は、限られた場所と内容に応じて、自主的な活動ができるように努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動、縦割り班活動は、継続して実施する。 特別活動行事や児童集会の内容、回数などを見直し実施する。

安全・安心な学校	学校環境の整備、安全教育の推進、危機管理の充実により、安心・安全な学校づくりを推進する。	① 安全配慮義務の遵守	安全管理上の空白・死角を作らないように、声を掛け合って看護当番・日直の仕事毎回行う。全学級共通の資料を活用し、「安全の日」の指導を毎月1回実施する。給食時のアレルギー対応(ボードの確認・児童本人への配膳・児童の机上へ配膳されたことへ目視)を毎回行う。	毎週木曜日に看護当番の引継ぎ、毎週金曜日の生活指導夕会で振り返りと情報共有を実施できた。全教員のアレルギー対応の徹底までは、不十分である。毎回の徹底を、管理職の確認により実施してきた。	B	・看護当番と日直の仕事内容を見直すとともに、安全に見守りができる体制の徹底を図る。
		② 情報発信・共有適切な接遇	学年便りなど(HPを含む)を毎月1回以上発行し、子供の学習や生活の状況を伝える。保護者会・個人面談・授業参観・連絡帳等により、子供の成長や課題などを適切な方法で学期に1回以上分かりやすく伝える。電話・来客に対しては、教職員自らの名を名乗り、礼儀正しく、社会人としての常識的かつ丁寧な対応を毎回行う。	全校朝会の話や本郷日記・給食の毎日更新など、毎日ホームページ更新に取り組み、昨年以上の閲覧数を記録した。保護者評価においては、「積極的に情報発信している」項目が昨年比10%増となり、ほぼ目標を達成することができた。保護者、地域の方々への接遇は、概ねできた。電話対応など、不徹底がまだある。	A	・今年度の取組の一層の充実を図る。 ・授業参観の回数増を検討し、保護者や地域の方々に学校の様子を知って頂く機会を増やす。
		③ 服務規律遵守	出勤簿や記録簿などの個人情報や教卓に置いたままにしないなど、毎日適切に管理・保管する。体罰及び不適切な行為が全くない指導を毎日実践する。学校外においても教育公務員としての身分を忘れずに毎日生活する。	服務事故防止月間や毎回の職員会議など、年間を通して服務事故防止の指導、研修会を実施してきたことで、服務事故0であった。	A	・今年度と同様に服務規律の徹底を図る。
オリンピック・パラリンピック教育	2020東京大会に向けて、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。	① 伝統文化理解教育や国際理解教育の推進	オリンピックやパラリンピックなどを招いた授業や体験活動を実施する。年間指導計画に基づき、児童が日本の伝統文化に触れる教育活動を実施する。年間指導計画に基づき、世界ともたちプロジェクトなどの国際理解教育を計画的に実施する。各教科において、多様性の尊重や障害者理解教育など、オリンピック・パラリンピックの精神に沿った指導を行う。オリパラ教育で行った内容の振り返りやまとめを行うことで、児童に内容が定着するような指導の工夫を行う。	オリンピックやパラリンピックは、夢先生も含め5名来校し、体験活動や講演を実施できた。総合的な学習の時間など、各学年において世界ともたちプロジェクト9カ国調べに取り組んだ。全校朝会での校長講話や体験後の振り返りなどを行うことができた。和太鼓、邦楽、華道、空手、昔遊びなど、日本の伝統文化に触れるとともに、JET青年との交流活動を行うことができた。	B	・今年度の取組の一層の充実を図る。 ・世界ともたちプロジェクトは、調べる学習から、直接交流の取組を計画的に実施する。

<学校の自己評価及び関係者評価を踏まえた教育委員会への要望事項>

1 緊急を要する事項

学区内の集合住宅の急増により、児童数・学級数が増加している。現在着工している免震ゴム交換工事については、安全に適切な対応をお願いしたい。

2 財政面

「生きる力」実現・学校力パワーアップ事業による予算令達を実施されたことは、学校の特色ある取組の充実につながるものとする。今後も継続・充実をお願いしたい。

3 人事面

来年度も、大幅な人事異動が見込まれている。今後も学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の意向を踏まえた教員の配置をお願いしたい。

今年度、筋ジストロフィーの児童が転入している。児童が安全に学校生活を過ごせるように、介助員の配置をお願いしたい。

4 設備面

築10年を経過し、施設の劣化が始まっている。開校20周年の年に向けて、校庭の人工芝張り替えなど、定期的な補修・改修の実施をお願いしたい。

5 その他